

6 「キャリアスキル形成 I・II」における 国家試験合格のための取組み

野村章子, 五十嵐雅子, 伊藤圭一, 高橋圭太
植木一範, 丸山 満, 木下美香, 飛田 滋
明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 歯科技工士国家試験, アチーブメントテスト, 弱点克服プログラム

はじめに

平成27年4月1日, 歯科技工士法をはじめとする関連法令の一部改正が施行され, 歯科医療専門職の資質を向上するために歯科技工士資格試験の全国統一化が決定された. この改正のもとで, 2年次のキャリアスキル形成 I (学説)・II (実技) の授業科目に, アチーブメントテスト (以降ATとする) を配置した教育体制を整えてきた. 初年度は学生全員が合格した.

次年度は, 国家試験の難易度アップに備え, 早期 (4月) から学説AT実施と解説指導をスタートする授業スケジュールが組まれた. さらに, 成績下位の学生グループには12月から補講が適宜実施された. その中で, 学生全員の成績は向上したにもかかわらず2名が希望する結果を得られなかった.

そこで, 勉強習慣や基礎力の多様な学生全員が合格できるように, 今までの成績推移を詳細に観察し, 成績下位グループに対する弱点克服プログラムを新たに組み込む対策を立案したので, その途中経過について報告する.

対象および方法

対象 : 歯科技工士学科 2年生

4月ガイダンスから国家試験直前までの期間

方法 :

1. 図1に示す8科目と実技課題等について, AT 5回, 学外AT 1回, 国家試験直前AT 2回の試験ならびに解説を行う.
2. ATの成績を科目別に随時分析しながら, 成績下位グループへの弱点克服プログラムを10日間程度放課後に継続する. 内容は国家試験対策問題集と教科書の関連性をまとめる自己学習とし, 実技課題も実施した.

<p>学説試験 : 歯科理工学*, 歯の解剖学* 顎口腔機能学*, 有床義歯技工学* 歯冠修復技工学*, 矯正歯科技工学 小児歯科技工学, 関係法規 *問題数の多い科目</p> <p>実地試験 : 歯科技工実技 (予定 ; 展開図, 歯型彫刻, ワイヤー平面屈曲)</p> <p>試験日等 : 平成30年2月18日, 東京都</p>
--

図1 歯科技工士国家試験

結果および考察

今回はAT 1回から5回 (11月) 実施までの成績推移について分析した.

1. ATの成績は全体的には, 学説と実技ともに回数を重ねる毎に向上する傾向を示した.
2. 弱点克服プログラム (学説) の実施により, 対象グループの成績は向上したが, 国家試験合格を確実にする得点 (75点) にはまだ達していなかった.
3. 弱点克服プログラム (実技) の実施により, AT 5回目までの成績集計では, 学生全員が60点以上の成績であった.
4. 今後は問題数が多い学説5科目を中心に, 弱点克服プログラムを継続しながら, 1月に行う国家試験直前ATまでに学生全員が国家試験合格を確実にするレベルに到達するよう取り組む.

まとめ

「キャリアスキル形成 I・II」の授業計画に弱点克服プログラムを組み込むことにより, 勉強習慣の強化や不得意な科目に焦点を絞った指導効果が示唆された.